

# 26Z-am09

モクレイシ葉部より単離した新規ジテルペン配糖体

○小山 裕加<sup>1</sup>, 松浪 勝義<sup>1</sup>, 大塚 英昭<sup>1</sup>, 武田 美雄<sup>2</sup> (<sup>1</sup>広島大院医歯薬, <sup>2</sup>徳島大総科)

【目的】モクレイシ *Microtropis japonica* Hallier f. はニシキギ科モクレイシ属に属し、神奈川、伊豆半島、九州、沖縄、台湾に分布する常緑低木である。我々は未利用植物資源の有効利用の一環として、沖縄県で採取した同植物の葉部の成分研究を行っている。その結果、新規ジテルペノイド配糖体 3 種を単離し構造決定を行ったので報告する。

【方法】モクレイシの乾燥葉 (3.25 kg) をメタノールで抽出し、順次 *n*-Hexane、EtOAc、1-BuOH、H<sub>2</sub>O で分配した。得られた 1-BuOH 可溶画分 (32.1 g) を Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィーおよび DCCC を用いて分離精製を行い、新規ジテルペノイド配糖体 3 種を単離した。得られた新規化合物の化学構造は、NMR スペクトルを中心に各種スペクトルを用いて解析を行い、下図のように構造を決定した。これらの化合物の立体構造については、現在検討中である。

